



倉田小だより 7月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

自分で考える

校長 丹羽 多香

「友達同士なのに、なかよくしていないみたい。相手のことは気にせず、ジコチュウ（自己中心）ってことかな。」
「この猿たち、友達じゃなくて、恋人同士なんだよ。恋愛の場面なんだから。」

6月25日（木）から一泊で行った修学旅行、翌日の午前中は世界文化遺産に登録されている日光東照宮を訪れました。日光東照宮の神廐舎（馬小屋）には、建物を取り囲むようにぐるりと猿の彫刻が8枚あり、猿の一生を表すストーリーになっています。有名な三猿は、この彫刻の2枚目ですが、上記の会話は、6枚目の猿の彫刻を眺めながらの子どもたちの会話です。

彫刻の猿は友だち同士だと主張していた児童は、全く別の行動をしている2匹の猿を見て、相手のことを考えて行動することの難しさに思い至ったのでしょうか。猿と自分たちを重ねながら、日常生活を振り返っていたのかも知れません。一方、恋愛の場面だと話す児童は、よく事前学習をしている様子でした。次の場面の彫刻で、二匹の猿が仲よく並び、家族になった様子を示しながら説明をしているようでした。

「考えることは好きだったけれど、試験の成績はぱっとせず、学校中のびりっこと思われていた。」ウィンストン・チャーチル（元イギリス首相）は言っています。「知っている」と「わかる」ことは違います。勉強して知識が豊かな子、どんな質問にも瞬時に答えられる子は、もちろん立派です。一方で、「待てよ、こうも考えられるなあ。」と悩む子もすてきです。正しい答えを知ることよりも、自分で考え、発見することに喜びを見出せるような、そんな子になってほしいと思っています。

日常生活のあらゆる場面にAIが存在し、質問すれば即座に答えが返ってくる時代、自分で調べる必要がない時代になりつつあると感じています。AIが言っていたから、友達が言っていたから、テレビで言っていたから…と考えることを放棄してしまうのではないかと不安になることもあります。絵本作家の安野光雅さんは、「人間を図る尺度が、ものを知っているかどうかにかかれている。自分でじっくり考えているからこそ、すぐに答えることができない。それをだめだと思われてしまうことが問題だ。」と語ります。（「考える子ども」安野光雅著）

根拠をもって、自分の考えを語ること、互いの考えを聞いて楽しむこと、自分の考えを広げること。子どもたちには、人間だからこそ持っているよさや強みを大切にしてほしいと願います。

神廐舎の三猿ストーリーの2枚目は、有名な「見ざる言わざる聞かざる」です。

「猿たちが、下を見てびっくりしてる!」「見ちゃいけないものがあるんじゃない?」

「俺ら?」

その発見、その感想、とてもおもしろい!子どもたちならではの三猿ストーリーを考え、大いに楽しんでほしいと思います。